

地域デジタルアーカイブと ジャパンサーチとの連携

南城市教育委員会文化課

田村 卓也



なんじょうデジタルアーカイブ

Nanjo Digital Archives

<https://nanjo-archive.jp/>





1. はじめに

- ・沖縄県内では、各自治体においてデジタルアーカイブの構築が進んでいる。
- ・南城市の「なんじょうデジタルアーカイブ」(通称:なんデジ)は2021年10月、県内の自治体として初めて、ジャパンサーチとの連携を開始した。
- ・今回の発表では、本アーカイブの概要を紹介するとともに、ジャパンサーチとの連携がもたらす効果と課題について報告する。



2. 南城市について

- ・2006年に4町村(佐敷町、知念村、玉城村、大里村)が合併して誕生した、人口4.5万人の市。
- ・市内には世界文化遺産「斎場御嶽」や国指定史跡である5つのグスク(城)など、さまざまな有形・無形の文化財が存在。



糸数城(国指定史跡)



古堅のミーミンメー



沖縄本島



3. 南城市のデジタルアーカイブ事業(1)

- 文化財を含め、市の歴史や文化に関する資料を保存・公開・活用していくための取り組みとして、南城市は2021年3月に「なんじょうデジタルアーカイブ」をリリース。
- これまでに、写真や文書、音声、映像など、7万点以上の資料をデジタル化。
- 肖像権やプライバシー等のチェックをおこなったうえで、デジタル化した資料の公開を少しずつ進めている。現在、公開されている資料は約9000点。

3. 南城市のデジタルアーカイブ事業(2)

本アーカイブの4つの特徴

- ① 市の歴史や文化に関係する幅広い資料を網羅している。
- ② 「資料は市民の財産」という認識のもと、デジタル化した資料は基本的にすべて公開。
- ③ 原則として、資料はすべてCCBYで公開。
- ④ 市の所蔵する資料だけでなく、市民から集めた古写真や情報を公開している。



「古写真トークイベント」の様子。地域から収集した写真をデジタル化し、それを見ながら当時のエピソードなどを自由に語ってもらう。集まった写真や情報は、アーカイブ上で公開している。これまでに24カ所でイベントを開催。

3. 南城市のデジタルアーカイブ事業(3)

- ・デジタルアーカイブとともに、古写真を見ながら地域を歩く観光コンテンツ「南城アーカイブツーリズム」も開発。
- ・今後は、学校との連携に力を入れ、教育の場におけるデジタルアーカイブの活用にも積極的に取り組みたいと考えている。



街中に貼られた「アーカイブツーリズム」のステッカー(右)。QRコードを読み取ると、古写真とともに、地域の方から教えていただいた、写真にかんするエピソードを見ることができる。一部はナレーション付き。



4. ジャパンサーチとの連携(1)

「南城市のことを、より多くの人に知ってもらいたい」

- ・「なんじょうデジタルアーカイブ」の認知度を高め、より多くの人に資料を見
てもらうため、試行錯誤を重ねてきた。
 - ①SNSによる細かな情報発信(Facebook, Twitter, Instagram)
 - ②コンテンツの多様化(特集記事、動画、文化財マップ、市町村史PDF など)
- ・資料情報をより広範囲に発信し、アーカイブの利用者を増やす方法を模索
しているなかで、ジャパンサーチとの連携にたどり着いた。



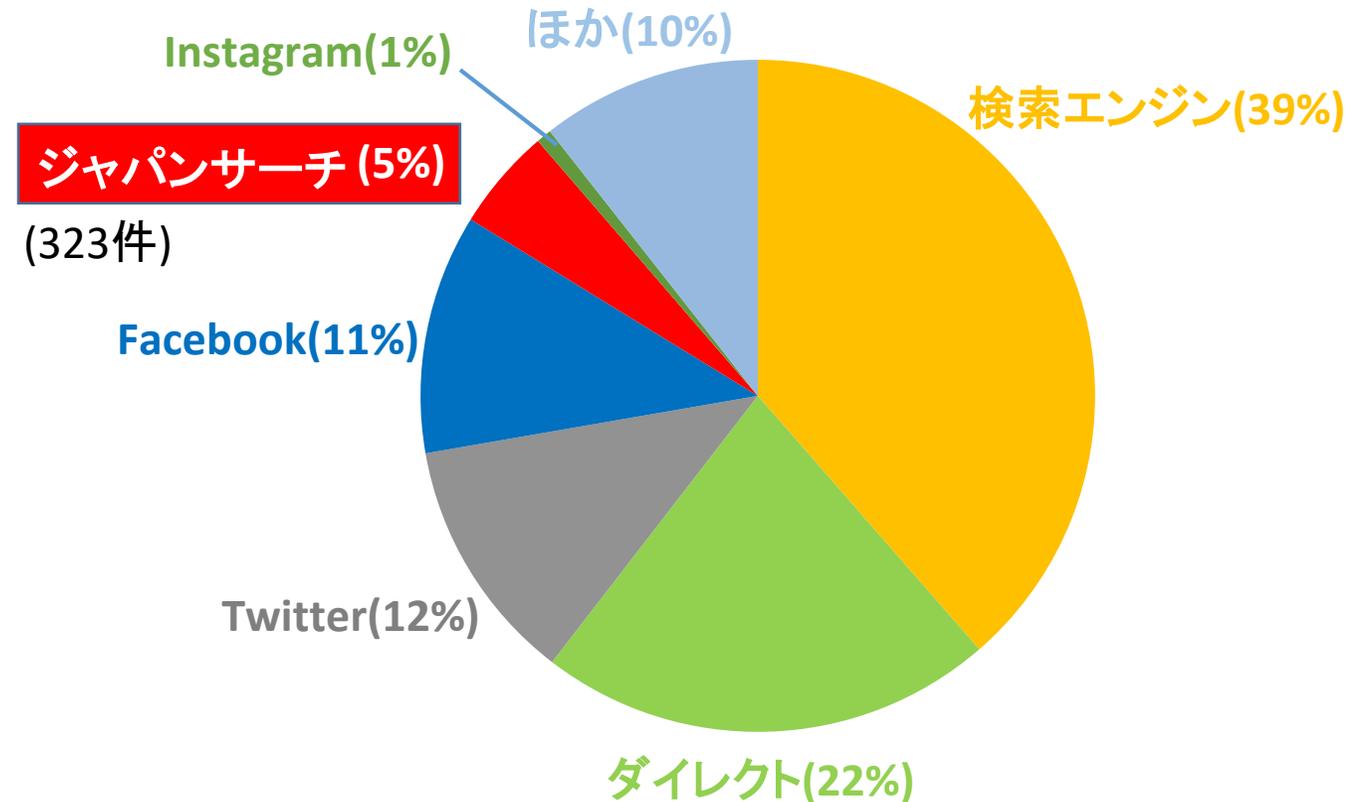
4. ジャパンサーチとの連携(2)

- ・デジタルアーカイブの構築時から、細かな資料目録を整備していたことに加え、使用しているクラウドサービスが連携用データの出力に対応していたため、連携に向けた作業は1週間ほどで完了。大きな手間はかからなかった。
- ・「なんじょうデジタルアーカイブ」公開から半年後、2021年10月8日より連携スタート。



4. ジャパンサーチとの連携(3)

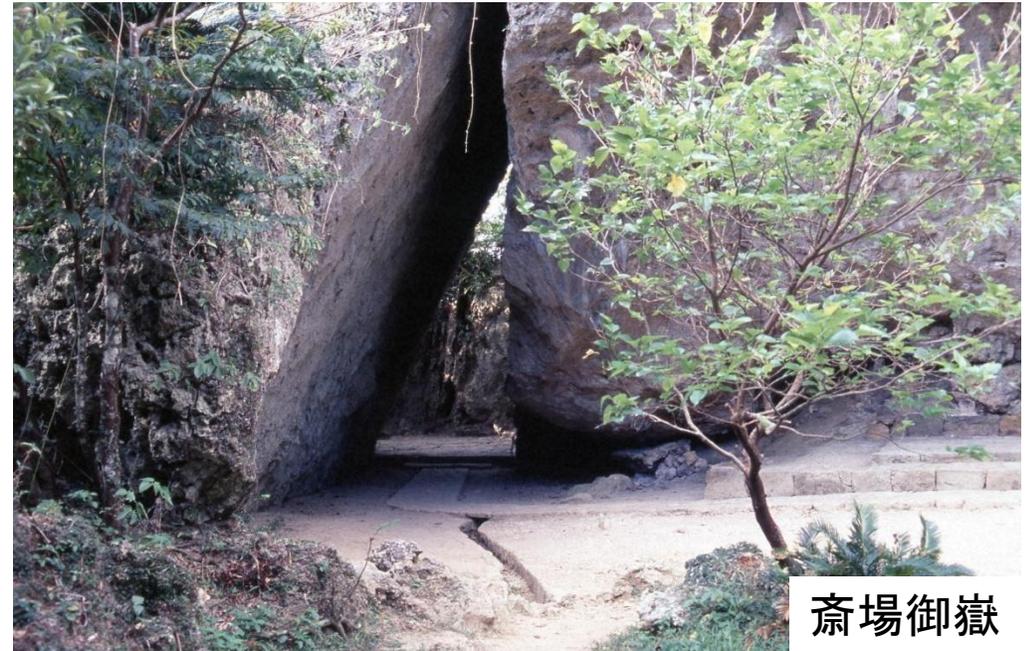
- ・「なんじょうデジタルアーカイブ」のアクセス分析によると、連携開始後から2022年7月25日までのHPアクセス数のうち、5%がジャパンサーチからの流入によって占められている。
- ・ジャパンサーチ上では、多くの人に南城市の資料を閲覧してもらっているが、アーカイブ本体に流入してくる利用者は少ないのが現状。





4. ジャパンサーチとの連携(4)

- ・その解決策のひとつとして期待しているのが、ギャラリーの活用。
- ・2022年5月に、ギャラリー第1弾として「斎場御嶽」を製作。たんに写真を紹介するだけでなく、斎場御嶽の歴史的背景や沖縄の文化にかんする細かな解説をつけて公開した。
→読者が南城市に興味を向けるきっかけになることを期待。
- ・今後も文化財や行事を紹介するギャラリーを増やし、そこからアーカイブ本体に流入する利用者を増やしたい。



斎場御嶽



5. 発表のまとめ

- ・地域デジタルアーカイブにとって、ジャパンサーチとの連携は資料情報の発信力を高める強力な手段になりえる。
- ・南城市のことをより深く知ってもらうためには、アーカイブ本体の多様なコンテンツも利用してもらいたい。また、アーカイブ事業の効果が評価される際には、どうしても量的要素(HPのアクセス数など)が重視される傾向にある。



ジャパンサーチとの連携を、アーカイブ本体の利用者増加につなげる工夫が必要。